

横查情報月報



横浜市衛生研究所

平成26年7月号 目次

【トピックス】

平成26年度 医動物・種類同定検査のまとめ(4~6月)	1
残留農薬検査(平成26年度 その1)	3
平成25年度薬事検査について	5

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成26年6月	6
------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成26年6月分)	10
-------------------------------	----

平成26年度 医動物・種類同定検査のまとめ(4～6月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。

平成26年4月から6月の種類同定検査件数は、7件でした。内訳は昆虫類6件(トビムシ目、シロアリ目、カメムシ目、コウチュウ目、ハエ目、ハチ目、各1件)、その他の節足動物1件(ダニ目1件)でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
風呂場の窓際に大量に虫がみられる	 成虫、灰白色、約1.5mm	トビムシ目的一种 (トビムシ目)	様々な湿った場所にみられ、生活圏は極めて広い。雑食性で、落ち葉や腐植物、菌類などを食べる。繁殖力が高く、好適条件下で大量発生することがあり、家庭内においても台所や植木鉢などに発生し、不快害虫となることがある。
蛍光灯内に虫が入っていた	 有翅虫、黄白色、約4mm	ヤマトシロアリ (シロアリ目)	常に湿った木材や土中で生活する。加害箇所が巣を兼ねている。有翅虫の群飛は、同一地域で1ヶ月間位の幅があり、関東近郊は4～5月である。高山や酷寒地を除く日本全土に分布する。
ベランダの鉢植えに多数の虫がみられる	 2齢幼虫、黒色、約3mm	クサギカメムシ (カメムシ目)	食相の範囲は広く、ゴボウ、クサギ、キリ、ウド、タラノキ、グミ、ミカン、ダイズ、ナシ、クワ、クリ等が知られている。農業害虫として、また室内に侵入することも多いため、衛生害虫としても問題となっている。
一戸建ての一階部分に多数の虫がみられる	 成虫、赤褐色、約2.5mm	アズキゾウムシ (コウチュウ目)	成虫は貯蔵中のアズキの表面に産卵する。幼虫は豆の中に食い入って成長する。アズキ、ササゲ、エンドウなどを食害する。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
屋内に虫がみられる	 働きアリ、黒褐色、約2.5mm	トビイロシワアリ (ハチ目)	草地など開けた場所に生息し、石下などに巣を作る。
天井と壁の隙間から虫が出てきた	 成虫、灰白色、約5mm	クロオビハナバエ (ハエ目)	幼虫は、動物糞、堆肥、台所のゴミなどから発生する。畜舎やごみ箱周辺で多数みられる。屋内侵入性はあまり強くない。
室内で広く虫がみられる	 成体、赤褐色、約0.8mm	クロバーハダニ (ダニ目)	イネ科、クロバー、イチゴ、キャベツなど多くの植物に寄生する。しばしば人家に侵入する。

【 検査研究課 医動物担当 】

残留農薬検査(平成26年度 その1)

当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成25年度に検査項目の見直しを行い、農産物ごとに検査項目を設定しました。

今回は、平成26年4月から5月までに食品専門監視班、各区福祉保健センター及び南部市場食品衛生検査所より搬入された農産物等の検査結果を報告します。

1 市内産農産物

4月に搬入されたこまつな(2検体)、トマト及びほうれんそう(各3検体)、5月に搬入されたカリフラワー、きゅうり、ほうれんそう、レタス(各1検体)、キャベツ、こまつな及びトマト(各2検体)の計18検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、きゅうり1検体からホスチアゼートが0.01ppm、こまつな1検体からイミダクロプリドが0.09ppm、トマト1検体からクロチアニジンが0.02ppm検出されましたが、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

2 国内産農産物

4月に搬入されたキャベツ、きゅうり、こまつな、トマト及びにんじん(各1検体)、5月に搬入されたアスパラガス、きゅうり、大根の根、トマト及びほうれんそう(各1検体)の計10検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、アスパラガス1検体からアゾキシストロビンが0.05ppm、きゅうり1検体からファモキサドンが0.03ppm、トマト1検体からフェンピロキシメートが0.03ppm、プロシミドンが0.13ppm、にんじん1検体からプロシミドンが0.01ppm、ほうれんそう1検体からイミダクロプリドが0.06ppm、クロチアニジンが0.56ppm、チアメトキサムが0.44ppm、フルフェノクスロンが0.37ppm検出されましたが、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 残留農薬検査結果

(H26年4月～H26年5月)

農産物	産地	検査検体数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出値(ppm)	基準値(ppm)	
市内産農産物							
カリフラワー	横浜市	1	0				
キャベツ	横浜市	2	0				
きゅうり	横浜市	1	1	ホスチアゼート	0.01	0.2	
こまつな	横浜市	4	1	イミダクロプリド	0.09	5	
トマト	横浜市	5	1	クロチアニジン	0.02	3	
ほうれんそう	横浜市	4	0				
レタス	横浜市	1	0				
国内産農産物							
アスパラガス	山形県	1	1	アゾキシストロビン	0.05	2	
キャベツ	神奈川県	1	0				
きゅうり	神奈川県	1	1	ファモキサドン	0.03	2	
	群馬県	1	0				
こまつな	神奈川県	1	0				
大根の根	茨城県	1	0				
トマト	神奈川県	2	1	フェンピロキシメート	0.03	0.5	
					プロシミドン	0.13	5
にんじん	徳島県	1	1	プロシミドン	0.01	0.5	
ほうれんそう	群馬県	1	1	イミダクロプリド	0.06	15	
					クロチアニジン	0.56	3
					チアメトキサム	0.44	10
					フルフェノクスロン	0.37	10

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出限界 (ppm)	A*1	B*1	農薬名	検出限界 (ppm)	A	B
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	—*2	○*2	テブフェノジド	0.01	○	○
DDT(DDE,DDD及びDDTの和*3)	0.005	○	○	テフルトリン	0.01	○	—
EPN	0.01	○	○	トラルコキシジム	0.01	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	トリコナゾール	0.01	○	○
アザメチホス	0.01	○	○	トリフルムロン	0.01	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	トルクロホスメチル	0.01	○	○
アゼキシストロビン	0.01	○	○	ノバルロン	0.01	○	○
アニコホス	0.01	○	○	パラチオン	0.01	○	○
イプロバリカルブ	0.01	○	○	パラチオンメチル	0.01	○	○
イプロベンホス	0.01	○	○	ピフェントリン	0.01	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	ピラクロストロビン	0.01	—	○
インダノファン	0.01	○	○	ピラゾリネート	0.01	—	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	ピリフタリド	0.01	○	○
エチオン	0.01	○	○	ピリミカーブ	0.01	○	○
エトプロホス	0.005	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○
エトリムホス	0.01	○	○	ファモキサドン	0.01	○	○
エンドスルフファン(α及びβの和)	0.005	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○
エンドリン	0.005	○	—	フェノキシカルブ	0.01	○	○
オキサジクロメホン	0.01	—	○	フェノブカルブ	0.01	○	○
オキサミル	0.01	○	○	フェリムゾン	0.01	—	○
オキシカルボキシシ	0.01	○	○	フェンアミドン	0.01	○	○
オリザリン	0.01	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○
カズサホス	0.01	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○
カフェンストロール	0.01	○	○	フェントエート	0.01	○	○
カルバリル	0.01	○	○	フェントラザミド	0.01	○	○
カルプロノパミド	0.01	○	○	フェンバレレート	0.01	○	—
クミルロン	0.01	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○
クロキントセット-メキシル	0.01	○	○	フェンプロバトリン	0.01	○	—
クロチアニジン	0.01	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	ブタミホス	0.01	○	○
クロリダゾ	0.01	○	○	フラメビル	0.01	○	○
クロールピリホス	0.01	○	○	フルシトリネート	0.01	○	—
クロールピリホスメチル	0.01	○	○	フルバリネート	0.01	○	—
クロールフェナピル	0.01	○	○	フルフェナセット	0.01	○	○
クロールフェンソン	0.01	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○
クロールフェンビンホス	0.01	○	○	フルリドン	0.01	○	○
クロクスロン	0.01	○	○	プロシミドン	0.01	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	プロチオホス	0.01	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	プロピザミド	0.01	○	—
シアノホス	0.01	○	○	ヘキサフルムロン	0.01	—	○
ジウロン	0.01	○	○	ヘキシチアゾクス	0.01	—	○
ジオキサベンゾホス	0.01	○	○	ヘプタクロル(エボキシドを含む)	0.005	—	○
ジクロフェンチオン	0.01	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○
ジクロラン	0.01	—	○	ペンシクロン	0.01	○	○
ジコホール	0.01	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	ペントキサゾ	0.01	—	○
シフルトリン	0.01	○	—	ボスカリド	0.01	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○
シペルメトリン	0.01	○	—	マラチオン	0.01	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	メタベンズチアズロン	0.01	○	○
スルプロホス	0.01	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	メビンホス	0.01	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	モノリニューロン	0.01	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	ラクトフェン	0.01	○	○
チアメキサム	0.01	—	○	リニューロン	0.01	○	○
テトラクロルビンホス	0.01	○	○	リンデン(γ-BHC)	0.002	○	○
テトラジホン	0.01	○	○	ルフエヌロン	0.01	○	○
テブチウロン	0.01	○	○				

*1 A:アスパラガス、カリフラワー、キャベツ、きゅうり、大根の根、レタス B:こまつな、トマト、にんじん、ほうれんそう

*2 ○:実施、—:実施せず

*3 DDTはp,p'-DDE、p,p'-DDD、o,p'-DDT及びp,p'-DDTの和

【 検査研究課 微量汚染物担当 】

平成25年度薬事検査について

平成25年度は健康福祉局医療安全課の依頼により、いわゆる健康食品、化粧品の試買検査を実施しました。

1 いわゆる健康食品の検査

「ダイエット」、「痩身」等を標榜している「いわゆる健康食品」9検体について、センナ、フェンフルラミン、N-ニトロソフェンフルラミン、エフェドリン、プソイドエフェドリン、メチルエフェドリン、ノルエフェドリン、甲状腺ホルモンの検査を行いました。

その結果、いずれの成分も検出されませんでした。

また、強壯効果を標榜する「いわゆる健康食品」9検体について、シルденаフィル、タダラフィル、バルデナフィル、ホンデナフィル、キサントアントラフィル、チオキナピペリフィル、メチルテストステロン、ヨヒンビンの検査を行いました。

その結果、ヨヒンビンが1検体から検出され、医療安全課から販売者を所管する自治体へ、薬事法違反として指導、措置を依頼しました。

ヘアケアを標榜する「いわゆる健康食品」3検体について、ミノキシジル、フィナステリド、デュタステリド、エストラジオール安息香酸エステル、メタノール、ホルマリン、水銀、デキサメタゾン、酢酸デキサメタゾン、ヒドロコルチゾン、酢酸ヒドロコルチゾン、コハク酸ヒドロコルチゾン、吉草酸ヒドロコルチゾン、プレドニゾロン、コハク酸プレドニゾロン、ベタメタゾン、酢酸ベタメタゾン、吉草酸ベタメタゾン、ジプロピオン酸ベタメタゾン、プロピオン酸クロベタゾール、ジプロピオン酸ベクロメタゾン、ピバル酸フルメタゾン、トリアムシノロンアセトニド、フルオシノロンアセトニド、アムシノニド、ハルシノニド、パラオキシ安息香酸メチル、パラオキシ安息香酸エチル、パラオキシ安息香酸プロピル、パラオキシ安息香酸イソプロピル、パラオキシ安息香酸ブチル、パラオキシ安息香酸イソブチルの検査を行いました。

その結果、2検体からパラオキシ安息香酸エステルを検出しましたが、いずれも最大配合量以下でした。

2 化粧品検査

クリーム9検体について、メタノール、ホルマリン、水銀、デキサメタゾン、酢酸デキサメタゾン、ヒドロコルチゾン、酢酸ヒドロコルチゾン、コハク酸ヒドロコルチゾン、吉草酸ヒドロコルチゾン、プレドニゾロン、コハク酸プレドニゾロン、ベタメタゾン、酢酸ベタメタゾン、吉草酸ベタメタゾン、ジプロピオン酸ベタメタゾン、プロピオン酸クロベタゾール、ジプロピオン酸ベクロメタゾン、ピバル酸フルメタゾン、トリアムシノロンアセトニド、フルオシノロンアセトニド、アムシノニド、ハルシノニド、パラオキシ安息香酸メチル、パラオキシ安息香酸エチル、パラオキシ安息香酸プロピル、パラオキシ安息香酸イソプロピル、パラオキシ安息香酸ブチル、パラオキシ安息香酸イソブチルの検査を行いました。

その結果、1検体からパラオキシ安息香酸エステルを検出しましたが、最大配合量以下でした。

【 検査研究課 薬事担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 6月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。
- 市外で麻しんに感染し、さらに家庭内で感染が広がった事例が報告されています。
- 伝染性紅斑が2011年以来の流行となっています。
- インフルエンザの報告が散見されています。

全数把握疾患 6月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	9件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
A型肝炎	1件	梅毒	2件
レジオネラ症	1件	風しん	2件
アメーバ赤痢	1件	麻しん	2件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件		

＜腸管出血性大腸菌感染症＞O157VT1VT2の報告が8件、O26VT1の報告が1件ありました。原因については現在調査中です。本症は例年夏季にむけて感染者数のピークを迎えるため、今後の注意が必要です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあります。通常、菌は家畜の腸内に存在しますが、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。また、[国立感染症研究所の報告](#)によると、昨年の菌陽性者が10人以上発生した集団感染22事例中19事例が保育施設における人から人への感染が拡大原因でした。2次感染予防のためには手洗い、適切なおむつ交換、プールでの感染防止対策の徹底や、遊具など共用する物の清掃および消毒が重要です。

＜A型肝炎＞1件の報告(I A型)があり、経口感染が推定されています。

＜レジオネラ症＞肺炎型1件の報告があり、現在感染経路等調査中です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症1件の報告があり、感染経路感染地域等不明でした。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者1件の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞60～80歳代の報告(いずれも予防接種歴確認できず。)が4件、幼児の報告(予防接種歴4回有り。)が1件ありました。

＜梅毒＞2件の報告があり、1件は早期頭症Ⅱ期(梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹、扁平コンジローマ)で、異性間性的接触による感染、もう1件は無症候期で同性間性的接触による感染が推定されています。どちらも感染地域等不明でした。梅毒は近年全国的に増加しており、特に男性の25～29歳で多くなっています。オーラルセックスによる感染の危険性があまり知られていないこともあり注意が必要です。また、感染した妊婦の胎盤を通じて胎児に感染すると、先天梅毒の原因になります。

＜風しん＞学童の臨床診断例の報告が2件あり、1件は予防接種歴が1回あり、もう1件はありませんでした。

＜麻しん＞2件の報告がありました。1件(D8)は学童で兄(市外学校での感染が推定されています。)からの感染が推定されています。もう1件(D8)は30歳代で市外の職場の同僚からの感染が推定されています。どちらもワクチン接種歴は確認できませんでした。全国的に麻しんの報告が増加しており、海外からの輸入例から周囲に広まるケースが散見されます。海外渡航歴および海外の人との接触の有無や、職場や学校での流行状況などの問診が重要です。麻しんの予防には2回の予防接種が必要です。定期予防接種(1回目:1歳以上2歳未満、2回目:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間)で、麻しん・風しん混合ワクチン(MRワクチン)を確実に接種しましょう。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の[「麻しん検査診断アルゴリズム」](#)をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。検査については健康安全課(671-2463)にご連絡ください。

定点把握疾患 平成26年5月26日から平成26年6月22日まで
(平成26年第22週から平成26年第25週まで。ただし、性感染症については平成26年5月分)の横浜市感染症発生動向評価を、
標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成26年 週一月日対照表

第22週	5月26日～ 6月 1日
第23週	6月 2日～ 6月 8日
第24週	6月 9日～ 6月15日
第25週	6月16日～ 6月22日

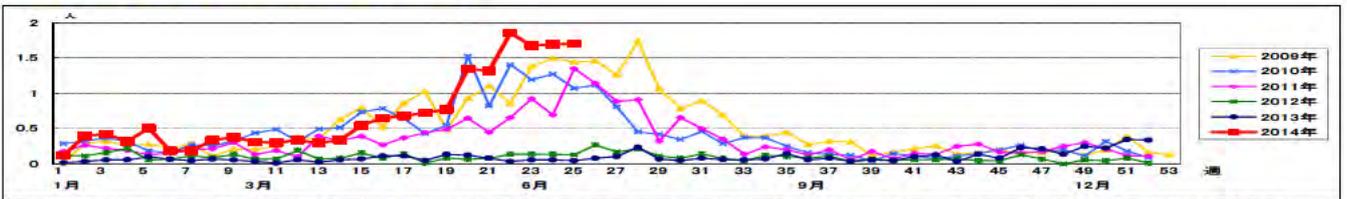
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

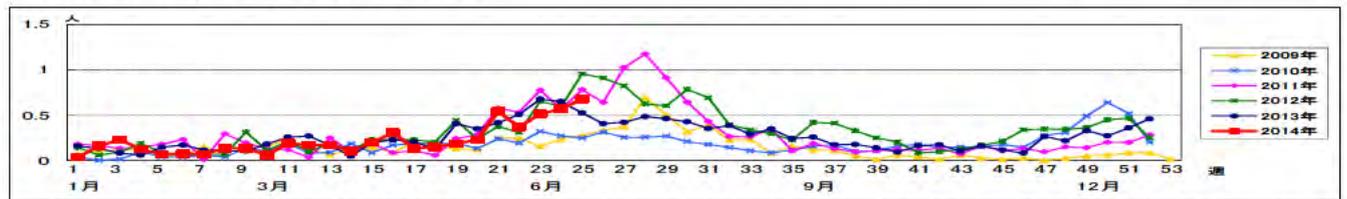
<伝染性紅斑>第25週は市全体で定点あたり1.70と、過去6年間の同時期と比べて報告が最も多くなっています。伝染性紅斑は典型的なヒトパルボウイルスB19(以下B19)感染症の臨床像です。B19感染症で注意すべきものの一つとして、妊婦感染による胎児の異常(胎児水腫)および流産があります。

◆伝染性紅斑について(国立感染症研究所)

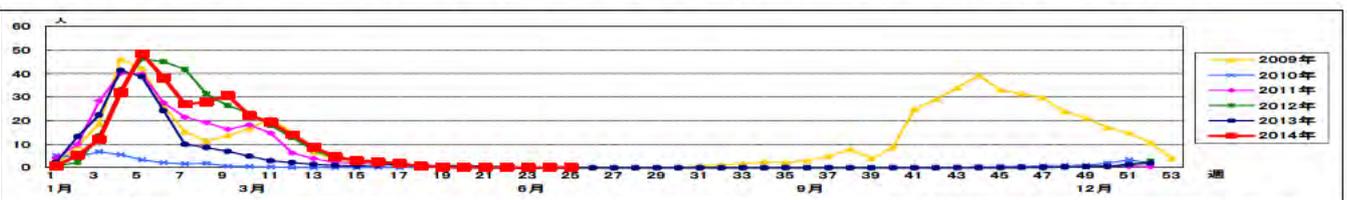
◆横浜市感染症臨時情報:伝染性紅斑



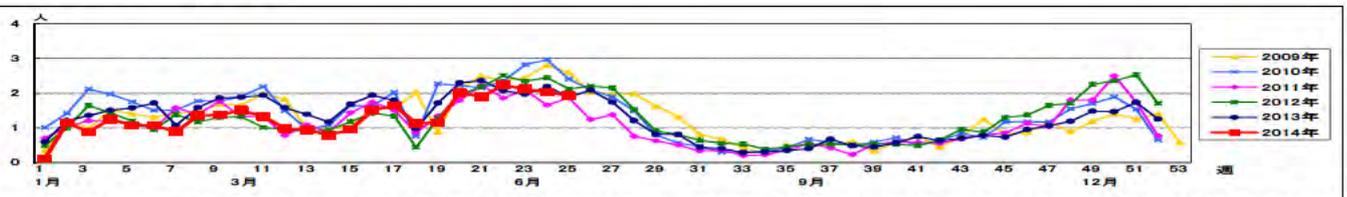
<咽頭結膜熱>第25週は市全体で定点あたり0.68と、報告が増加傾向ですが、警報発令基準値(定点あたり3.00)は大きく下回っています。



<インフルエンザ>第25週は市全体で定点あたり0.15と落ち着いていますが、都筑区2.80、瀬谷区0.50と報告が増加している区が見られます。報告のあった迅速キット結果の集計では、A型94.7%、B型5.3%でした。定点医療機関以外でもインフルエンザ患者が発生しているという報告もあり、注意が必要です。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>第25週は市全体で定点あたり1.93と、例年の同時期と同様にやや報告が多くなっています。



<性感染症>5月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が7件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が12件です。尖圭コンジローマは男性5件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が21件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第22週0.00、第23週0.75、第24週0.25、第25週0.00と落ち着いています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第22週0.00、第23週0.25、第24週0.25、第25週0.00と落ち着いています。クラミジア肺炎は第22週に1件報告がありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>5月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症8件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

6月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点45件、基幹定点9件で、眼科定点3件、定点外医療機関からは5件でした。

7月10日現在、ウイルス分離5株と各種ウイルス遺伝子28件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(6月)

主な臨床症状 または診断名 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	R S 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱 (アデノ感染症含む) *2	胃 腸 炎	手 足 口 病	ヘル パン ギ ー ナ	無 菌 性 髄 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	発 熱 の み	口 内 炎	りん ご 病 *2	そ の 他
アデノ NT*1					1									
アデノ 1型	1													
アデノ 2型	1				1									
アデノ 3型					1									
アデノ 6型					1									
単純ヘルペス NT												1		
パラインフルエンザ 3型	6	1												
ヒューマンメタニューモ		3												
ヒトコロナ*1		1												
ボカウイルス		1												
ヒトパルボ B19													3	
ライノ	3	3												
コクサッキー A 4型								2						
コクサッキー A 5型	2													
コクサッキー A 10型	1													
合計	13	9	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0
													3	0

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1 NT:未同定、ヒトコロナウイルス:HCoV229E or NL63、HCoV-OC43

*2 りんご病(疑い含む)・アデノ感染症(咽頭結膜熱含む)

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

6月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点から1件、基幹定点から8件、その他が13件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7、O26:H11)、サルモネラ(*S. Enteritidis*、*S. Djakarta*)が検出されました。

その他の感染症は小児科から7件、基幹定点から3件、その他が22件でした。A群溶血性レンサ球菌(T型別不能 1株)は劇症型レンサ球菌でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(6月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	6月			2014年1月～6月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌		1	9		1	12
腸管毒素原性大腸菌					1	
サルモネラ		1	3		25	3
カンピロバクター						1
NAGビブリオ						1
不検出	1	6	1	2	27	14

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	6月			2014年1月～6月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌 T1	1			1		2
T4	3			4		
T6	1			6		
T11				1		
T12	1			6		
T B3264				2		
型別不能	1		1	3		1
B群溶血性レンサ球菌			1			12
D群溶血性レンサ球菌						2
G群溶血性レンサ球菌						3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		2	1		10	1
<i>Legionella pneumophila</i>			1			4
インフルエンザ菌			2			4
肺炎球菌			6	1		60
結核菌			3			4
百日咳					1	
その他		1	1		8	2
不検出	0	0	6	3	1	20

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成26年6月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成26年6月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成26年6月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成26年6月)

平成26年6月の総アクセス数は、135,987件でした。主な内訳は、感染症情報センター68.9%、食品衛生5.3%、保健情報7.4%、検査情報月報3.8%、生活環境衛生2.9%、薬事0.7%でした。

(2) アクセス順位 (平成26年6月)

6月のアクセス順位(表1)

表1 平成26年6月 アクセス順位

は、第1位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」、第2位が「ぎょう虫(蟯虫)症について」、第3位が「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」でした。

順位	タイトル	件数
1	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	7,368
2	ぎょう虫(蟯虫)症について	4,605
3	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	4,040
4	衛生研究所トップページ	3,027
5	EBウイルスと伝染性単核症について	2,766
6	臨時情報「伝染性紅斑(りんご病)が流行しています」	2,760
7	サイトメガロウイルス感染症について	2,679
8	サルモネラ感染症(食中毒)について	2,387
9	調査研究・試験検査機関のあり方に関する報告書	2,148
10	食品衛生情報	1,906

6月の総アクセス数は、前月に比べ3%ほど減少しました。今月の1位は、「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」でした。クロストリジウム-ディフィシル

データ提供: 市民局広報課

感染症は、老人や免疫機能が低下している人たちに多く発生します。2位には「ぎょう虫(蟯虫)症について」が入っています。また、6位に臨時情報で「伝染性紅斑(りんご病)が流行しています」が入りました。流行の中心は4~5歳であり、幼児や妊婦の方の感染に、特に注意が必要です。

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/gyou1.html>

「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/gbs1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成26年6月）

平成26年6月の問い合わせは、6件でした(表2)。

表2 平成26年6月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
狂犬病について	1	感染症・疫学情報課
狂犬病ウイルスについて	1	感染症・疫学情報課(検査研究課確認済)
パンフレット使用許可について	1	感染症・疫学情報課
HIVのNAT検査について	1	検査研究課ウイルス担当が回答案作成し、感疫課から回答
HIV検査について	1	検査研究課ウイルス担当が回答案作成し、感疫課から回答
区別・性別定点情報の掲載不備について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成26年6月）

平成26年6月に追加・更新した主な記事は、8件でした(表3)。

表3 平成26年6月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
6月 2日	感染症に気をつけよう(6月号)	掲載
6月 2日	インドのこどもの定期予防接種について	掲載
6月 6日	ミャンマーのこどもの定期予防接種について	掲載
6月11日	◆パンフレット◆ 咽頭結膜熱(プール熱)に注意!	掲載
6月12日	インドネシアのこどもの定期予防接種について	掲載
6月13日	ミャンマー(ビルマ)のこどもの定期予防接種について	更新
6月18日	モルディブのこどもの定期予防接種について	掲載
6月27日	タイのこどもの定期予防接種について	掲載

【感染症・疫学情報課】